

夢追塾同窓会3期 **みよし会** 11月例会報告

30年度宿泊研修(豊前・湯布院・院内)



「みよし会」恒例の宿泊研修会は、今年は11月17日(土)、18日(日)の2日間、大分県湯布院を宿泊先に、福岡県豊前市や大分県宇佐市院内町などの施設、史跡、景勝地を視察見学しました。

〈参加者〉 (順不同・敬称略)

今井由子、江崎芳子、小松良子、定平育子、貞光文江、高城泰男、永吉和幸、畑美根子、三木良子

■初日は3台の車に分乗して午前10時、道の駅「豊前おこしかけ」に集合。まず江崎さんの案内で、木工細工やその材料作りなどを通して障がい者支援活動をしているNPO法人「森の学校」を見学。高さ10数メートルもある丸太作りの巨大椅子に迎えられた後、「森の学校」の理事長の舟橋慎一郎さんの話を聞きました。「正しいと思うことを楽しみながら続けていくこと」という舟橋さんの生き方は心に染みしました。そのあと、廃校になった上川底小学校の校舎を再利用した「もみじ学舎」を見学。参加者それぞれが自らの小



学生時代を懐かしく思い出しました。湯布院では「ゆふいん文学の森」を見学。太宰治が下宿していた東京・荻窪の「碧雲荘」を移築したという施設です。いろいろな遺品などを目の当たりして大文豪の世界に少しだけ浸りました。この日の「お宿」は湯布院にある貞光さんの親戚所有の別荘。参加者みんなでスーパーに買い出しに出かけ、晩ご飯の準備。まるで「屋内キャンプ」といった雰囲気で大城さん差し入れの猪肉による「猪鍋」を満喫しました。

■2日目は帰路途中の安心院町の「福貴野の滝」「仙の岩」の奇観を楽しんだあと、院内町に移り、富士見橋、久地橋、鳥居橋を次々と巡り、江戸末期から連綿と続いた院内の石橋造りの歴史を学びました。中でも明治時代に「石橋王」と呼ばれた松田新之助の名作で「石橋の貴婦人」の異名を持つ鳥居橋には感銘を受けました。両日も天気にも恵まれ、やや盛りは過ぎてはいたものの、どこも美しい紅葉に出会うことができました。

